Essay

サバティカルと地元デビュー

藤井 敦史（コミュニティ政策学科教員）

2021年度、１年間のサバティカル（研究休暇）を頂きました。この小文では、2021年度の１年間に私がどんなことをやってきたのか、簡単に紹介させていただこうと思います。実は、2021年度のサバティカルは、コロナ禍のため当初の計画から大きな変更を余儀なくされたところから始まりました。すなわち、英国で１年間の研究休暇を過ごそうと、2020年１月頃には、シェフィールド大で客員研究員としてお世話になる約束ができていたのに、コロナ禍の猛威が２月頃から激しくなり始め、2021年度の英国行は困難そうなのであきらめざるを得ないという状況に陥ってしまったのです。そして、コロナ禍がいつ収束するかわからない中で、収束するまで待っていたらいつになったらサバティカルを取得できるかわかりませんでしたから、大幅に方向転換して、国内でやれることをやろうということで2021年４月から2022年３月まで研究休暇を取得させていただきました。

正直言うと、当初は、かなりがっかりしました。しかし、気を取り直して、メインの研究としては、社会的連帯経済に関する科研調査研究を基盤とした書籍、藤井敦史編『地域で社会のつながりをつくり直す社会的連帯経済』彩流社を2022年３月に出版することができました。日本では、社会的連帯経済に関する書籍は、まだまだ少ないですが、この本は、理論研究としても、実証研究としても、結構、面白い本になったと思いますので、御興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非、手に取っていただけると嬉しいです。また、後期博士課程の大学院生イ・ヘリンさんとの共著論文「韓国における社会的経済研究の動向」、『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第９号、1―17頁を一緒に執筆できたのも良い思い出になりました。それから、コロナ禍でもZoomを使えば、多くの人々とオンライン研究会ができますので、科研調査プロジェクトのメンバーを中心に２週間に１回は、金曜日の夜８時から２、３時間の読書会を延々やっていました。このオンライン読書会には、四日市、名古屋、岐阜、神戸、静岡、韓国等々からも多くの研究者や実践家が参加し、毎回、盛り上がって楽しい時間を過ごすことができました。

ということで、以上のように、研究休暇ですから、一応真面目に研究をしていたわけなのですが、ここからは、研究以外に何をやっていたのかということについても触れたいと思います。コロナ禍のためにグローバルな夢が潰えてしまいましたので、逆に「思いっきりローカルなことをしてやろう！」と決心し、期せずして地元

デビューを果たした１年となりました。一つ目は、パートナーがKKINIというテイクアウト専門の韓国総菜屋さんを自宅で開業したことです。お店と言っても、台所の窓から商品を出すだけのお店で、設備費はほぼかかっていません。キムチ、チジミ、キンパ、ヤンニャム・チキン、スンドゥブなどを売っており、週の内３日しかオープンせず、８月と３月は丸々休むという比較的のんびりしたお店です。2021年の５月にオープンしたのですが、最初の内、特に仕入れ先が安定するまでは、かなり仕入れを手伝わされていましたので、業務スーパーで膨大な鶏肉を買って運んだり、OKスーパーで小麦粉を数十袋も買ったり、結構大変でした。今は、長野で有機農業をやっている知り合いのNPOリーダーからホウレン草やら大根、それにお米も仕入れています。このお店を開いたおかげで、御近所の友達が随分と増えましたし、うちの息子が小学生だった時のママ友たち数名の雇用創出（？）もできました。おかげで、お店の日は、ママ友たちや韓流ドラマやBTSにはまっているお客さんたちが集まって賑やかです。お店の上の書斎で論文が書けずにうんうん唸っている私にとっては、ちょっとしんどい時もありますが、嫁さんのご機嫌もいいので、「まぁ、いっか！」という感じです。ちなみに、原価率が高すぎて、大して儲かっていないのが玉にキズです。

二つ目は、地元の吉祥寺や西荻窪のNPOとの交流です。私の自宅は、東京女子大の近くにあるのですが、東京女子大の裏手に善福寺という大きな二つの池を中心とした公園があります。吉祥寺だと、井の頭公園が有名ですが、こちらの善福寺は、もっと落ち着いた公園です。カワセミ、鴨、大きな鷺など、色々な鳥が集まり、春には桜、初夏には蓮の花が美しい自然の豊かな気持ちの良い場所です。この善福寺公園のすぐ近くにカワセミ・ピプレットというビーガン料理を出す一風変わったコミュニティ・カフェがあります。ここの女主人がブランシャー明日香さん（旦那さんがフランス人）という方で、このカフェを基地として環境問題に取り組んだり、市民教育のプロジェクトを展開したりしています。最近では、ミュニシパリズム（地域自治主義）を旗印に見事杉並区長選で当選した岸本聡子さんの選対にも入り、シャンソン風のミュニシパリズムの歌まで作って選挙運動を盛り上げました（ちなみに、選対事務局長を務めたのは、私が理事をしているNPO法人PARC代表の内田聖子さんです）。この明日香さんが、偶然、私たちが翻訳したボルトン著『社会はこうやって変える―コミュニティ・オーガナイジング入門』を読まれたことから、コミュニティ・オーガナイジングのレクチャーを頼まれるようになり、カワセミ・ピプレットに集まる多様な市民グループの方々とも友達になりました。

それから、三鷹と吉祥寺には、若者支援で有名なNPO、文化協同学習ネットという団体があります。ここの代表をしている佐藤洋作さんとは、以前から、一緒に韓国調査に出かけて珍道中を繰り広げたり、共著本を書いたり、うちの学部のNPO系

インターンシップでお世話になったりと、とても仲良くさせて頂いているのですが、現在、文化学習協同ネットとワーカーズ・コープ、三鷹市民協働センターのスタッフが一緒になり、三鷹・武蔵野コモンズの会という集まりを定期的に開催しており、私も、その世話役の一人として活動しています。三鷹市や武蔵野市には、実は、多彩なNPOが存在しているのですが、それらの横のつながりがなかなかできていないので、「この地域の市民団体が緩やかにつながれるネットワークを作るため、お互いの活動についてざっくばらんに学び合おう」というのが会の主旨です。居住支援のNPO、コミュニティ・デザインを手掛けている建築家、オルタナティブな教育を志向している教育関連のNPOなど、様々な人々が集まって、毎回、面白い話を伺うことができます。上記、二つの地元の活動に参加する中で、私は、地元の吉祥寺、三鷹、西荻窪といった地域には、本当に豊かな市民社会が息付いているのだということに気付くことができました。今まで、東ロンドンのタワー・ハムレッツ区でインターンシップ・プログラムを展開してきて、英国では、なんでこんなに徒歩10分で歩けるような狭い地域に、これほど多くのNPOや協同組合があるのだろうと羨ましく思っていたのですが、灯台下暗しだったというわけです。

それから、最後に触れたい地元デビューが、坐禅です。善福寺の池のほとりに、臨済宗の流れをくむ人間禅という在家禅の道場があります。明治時代に中江兆民のような自由民権運動で活躍していた人たちが始めた坐禅の会なので、とても民主的な会の運営をしているのが特徴です。私は、実は、鎌倉生まれで、若い頃、特に修士論文で苦しんでいた頃は、竹の寺として有名な報国寺で時々坐禅をしていました。そんなこともあり、坐禅をちゃんとやってみたいなという思いが前からありましたので、サバティカルで比較的時間もあったため、思い切って坐禅道場の門を叩いてみたわけです。禅宗には、皆さんも、中学か高校の歴史の授業で習ったと思うのですが、只管打座の曹洞宗と公案修行をする臨済宗がありますが、この坐禅道場は臨済宗なので公案修行があります。「本来面目」とか「隻手音声」とか、論理的には説明できないし、言語的に語ることもできない悟りを得るための道標のようなものが公案で、坐禅と公案の二つによって、新しい境地を拓くというのが臨在禅の肝ということになります。この公案というものが、本当に難しくて、なかなかうまくいかなかったのですが、この度、最初の公案を無事に透過（通過）しまして、道号（名前）を授与されました。「無道」という道号です。最初、授与式で「無道」という名前を聴いた時、昔、テレビに出ていた織田無道さん（霊能者でしたっけ？）と同じかよと思ったのですが、小さい我を壊しつくして「無」に至る道を行けという意味が込められているのだと解釈しています。「無」という概念は、空と同様、なかなか捉えにくい概念で、それこそ言語的に理解できる代物ではないのですが、無の境地が体得できるようになったら、きっと自由な世界が広がっているのかなと考えて

います。

さて、以上、私がサバティカル中に行った地元デビューについてお話しさせていただきました。こうして考えてみると、自分でも、なんだか相互に関係のない色々なことをやっていたなぁと思います。地元のNPOとの付き合いは別として、サバティカル中に自宅がお店になったり、坐禅を始めたりする教員は、あまりいないと思います。ですが、サバティカル中に、自分が住んでいる地域には、本当に多様で面白い人たちが一杯いて、一緒に色々なことができそうだということがわかったことは、自分にとって人生の転機になるかもしれません。こういうプロセスを通じて、コミュニティ福祉学部の「コミュニティ」の真髄に近付いていけたら嬉しいです。皆様、今後とも、よろしくお願いします。